

(仮称) アートを活かしたまちづくり戦略(素案) に対する
パブリックコメント(市民意見募集)の結果について

1 実施状況

- (1) 募集期間 平成 29 年 12 月 20 日(水) から平成 30 年 1 月 18 日(木) まで
- (2) 意見提出者数 4 人
- (3) 意見件数 15 件
- (4) 提出方法

提出方法	直接書面	郵送	ファックス	電子メール	計
人数	1 人	—	1 人	2 人	4 人

2 提出された意見要旨とそれに対する市の考え方

番号	意見要旨	市の考え方
1	<p>黒磯駅前広場等へのパブリックアート設置の提案</p> <p>「アートを活かしたまちづくり」への市民の機運を高めるためには、まずはこの重点取組に資源を集中させて成功事例をつくるのが極めて重要と考えます。黒磯駅をゲートウェイとするならば、P.9(1)③にもありますが、黒磯駅前広場に象徴的かつインパクトのあるパブリックアートを設置し、駅に降り立った瞬間から「アートのみち」にきたと体感できるように作り込むことを提案します。さらに、青木や戸田など板室温泉へ至るルート上にも同様のアートを点在させ、市民や訪問者の興味を掻き立て、寄り道させるような仕掛けも重要と考えます。</p> <p>また、素案全体の根底にあるような一つひとつの市民活動を積み上げていく方向性は重要ですが、このプロジェクトに関しては、トップダウン的な強いリーダーシップが求められていると考えます。</p>	<p>戦略に記載のとおり、パブリックスペースへのアートの設置を推進していく予定です。</p> <p>いただいたご意見も参考にさせていただき、実際の設置に向けて検討してまいりたいと考えております。</p>
2	<p>SHOZOストリートの若手起業家との協働</p> <p>ルート上にある通称 SHOZO ストリートには魅力的な店舗が集まっており、既に多くのファンを得ています。ルートにおけるアートの集積度を高めて魅力あるものにするためには、彼らをプロジェクトの重要なプレイヤーと位置づけ、協働していくことが必須と考えます。例えば、ART369 プロジェクト参加店舗を募り、店舗のディスプレイや展示、商品にプロジェクトとのリンクをもたせる。そして、P.11(3)①のアートめぐりマップにもこれらの店舗をアート・スポットとして掲載して、マップを市民向</p>	<p>板室街道沿いの事業者は、ご意見のとおり重要な担い手であると考えております。</p> <p>今後、具体的な事業を進めていく際には、ご意見に記載の事業者も含め、様々な方との協働により進めてまいりたいと考えております。</p>

番号	意見要旨	市の考え方
2	け情報提供としてだけでなく、観光ツールとしても魅力あるものにするを提案します。	
3	<p>事業者を主体者とする位置づけ</p> <p>上記のように事業者との協働を行うには、事業者を単に「アートを理解者・支援者」と位置づけるにとどまらず、主体者の一つとして積極的に位置づけることが欠かせないと考えます。なぜなら、第2章（1）③にあるように「文化芸術資源を活用した経済活性化」をめざし、アートを「観光地の魅力や産業付加価値などを生み出す源」と位置づけるのであれば、経済活動の主体すなわち事業者とともに取り組み、具体的な付加価値を生んでいくことが重要だからです。</p> <p>また、P.8 第3章（4）の目標値として観光客入込数を設定するのであれば、観光関係の事業者団体や商工会なども推進体制のメンバーとして例示する必要があると考えます。</p>	<p>ご意見を踏まえ、「…（略）理解者・支援者であることはもとより、主体者としての役割も期待されます。」と修正いたします。</p> <p>また、取組の実施に当たっては、関係団体と連携し推進していきたいと考えております。</p>
4	<p>那須野が原ハーモニーホールの位置づけ</p> <p>（1）②子どもがアートに触れる機会、③アートの場づくり、（2）⑤教育機関との連携、の各項目において、那須野が原ハーモニーホールをアート体験の重要な場として位置づけ、活用していく視点が抜けています。那須塩原市は同ホールの管理運営や施設維持に他の公共施設に対する額と比較しても多額の拠出をしているにもかかわらず、これではもったいない。同ホールはコンサートホール建設を計画している世界の都市がうらやむ「Nagata Acoustics」が音響を手掛け、サントリーホールやパリのフィルハーモニーと同じリーガー社のオルガンを擁し、世界レベルのホール・オルガニストも所属しています。したがって、P.15（3）の「大田原市」一般に含めてしまうのではなく、計画の各項目で拠点として位置づけ、同ホールでの子ども時代の体験が市民にとって宝物になるような活用をすることを提案します。</p>	<p>ご意見を踏まえ、アート関連施設マップに「那須野が原ハーモニーホール」を記載いたします。</p>
5	<p>塩原温泉への言及を</p> <p>例えば、アーティストに一定期間滞在してもらい、場所からインスピレーションを受けて作品を制作してもらおうとか、将来的に「アートのまち」としてスケッチや吟行など趣味のサークル旅行のデステイネーションとしてプロモーションしていくということなどを考えた場合、自然の景観が起伏と変化に富</p>	<p>塩原温泉の地域資源としての魅力は認識しており、次期戦略では市内全域への展開を考えております。</p> <p>ご意見を踏まえ、「将来的な展開として、ART369 プロジェクトの効果を検証し、改善等を図りながら、各地域の資源を活用し、市内全域へ展開していきます。」と修正いたします。</p>

番号	意見要旨	市の考え方
5	んでいる塩原温泉には大きな潜在力があります。よって第一弾として取り組む地域に該当しないとしても、将来的な展開として戦略の中で明確に位置づけることを提案します。	
6	市文化協会としての作品展等 那須塩原市文化協会が発足したが、三地区（黒磯・西那須野・塩原）の全体のまとまった作品展・ステージによる発表会などは行われていない。 施設（黒磯文化会館・共和大）はあるのだから、2年に1度は実施できる。	市文化協会では、過去に全体事業として写真展やギャラリー部門の合同作品展を開催しております。 今後の合同事業につきましては、市文化協会での検討を支援してまいります。
7	那須野が原博物館のギャラリー 那須地区の造形作家（美術・工芸）の発表できるギャラリーが望まれる（展示棟の新設）。	現在、展示棟新設の計画はございませんが、博物館エントランスギャラリーは、市民の作品発表や活動紹介等にご利用いただけますので、ご活用ください。
8	那須野が原博物館の収蔵品 那須野が原博物館には充実した作品が収蔵されているが、新たに収蔵を申出た場合、選定委員会（仮称）を設け、公正な作品が収蔵されることを望みます。	寄贈の申し出があった場合は、対象となる資料が博物館収集方針に合致するか否かを館内で十分に協議し、公正に受け入れを行っております。
9	アートの場づくり 旧戸田小を改装して、各種講座・作家の交流の場などにしてはどうか（市の職員の常駐）	旧戸田小学校につきましては、民間事業者による活用が予定されております。アートもコンセプトの一つとして、計画されているところです。
10	アーティストの育成支援 市内には、元芸大教授・芸大卒など複数の作家がありますが、登録制度を実現し、各作家の講座、ワークショップなどできる事項等を具体的に明記していただく。	ご指摘の作家の方について、市で把握しておりませんので、そういった情報を把握するためにも、アート資源調査を実施する予定です。 調査の際には、アーティストの方が「アートを活かしたまちづくりに協力できる事項」を調査項目のひとつとして、調査することを検討します。
11	アートフェスティバルの開催 昨年、那須町でシンポジウムが開催された。大田原市でもそれなりの機運はあります。那須地区全体の芸術祭を期待します。	本戦略の計画期間では、ART369 プロジェクトの集大成として、アートフェスティバルの開催を目指すこととしております。 戦略に記載のとおり、将来的には、那須地域への展開も見据えております。
12	アート関連施設マップ 日新の館・塩原もの語り館も加えてはどうか。	ご意見を踏まえ、アート関連施設マップに「日新の館」「塩原もの語り館」を記載します。

番号	意見要旨	市の考え方
13	<p>ひたちなか市との交流について 文化協会黒磯支部とひたちなか市の交流が以前から行われて努力されているが、この交流を那須塩原市文化協会とひたちなか市の文化協会へともっていき、交流の充実を図る。</p>	<p>姉妹都市であるひたちなか市とは、現在支部単位での交流を実施しております。 ひたちなか市を含めた今後の交流事業につきましては、市文化協会での検討を支援してまいります。</p>
14	<p>まずは身近な作品紹介を 良い企画と思います。是非推進してください。 市庁舎（本庁舎）を訪れると屋内外に絵画、彫刻等の作品が多くみられますが、市民にどれだけ知られているのでしょうか。たとえば以前、私の好きな作家で青木在住の「松原賢」さんの作品が市役所にあると聞いたので、案内担当の職員さんに聞きましたが、知りませんでした。調べていただき秘書課にあることがわかり観ることができました。この様に支所、関連施設を含め普段市民の目につき難い場所にも作品があるのではないのでしょうか。是非市民に紹介、公開して下さい。例えば市報の裏表紙に特集を組み紹介するなども一例だと思います。ご検討下さい。</p>	<p>市民の方にわかりやすく情報提供をすることが重要であると考えております。 ご意見を踏まえ、「プロモーションの充実」に、「・広報なすしおばらを活用するなど、アートを活かしたまちづくりへの理解を深めるための情報発信を行います。」を追加いたします。</p>
15	<p>アーティストのために アーティストが発信する場所がない。それを通して利益を得る方法がない。アートといっても色々な形があるが、利益につながらなければアーティストは続けることができない。利益を生み出す美術である工芸にも目を当てて欲しい。 また、フォトコンテストや美術展は開催されているが、人が集まっていない気がします。もっと生活に身近なアート（実際に家で飾りたい、使いたいというもの）に興味を持つのではないのでしょうか。 趣味で芸術品を制作していることも素晴らしく大切な事ですが、経済を回し、人を動かすには、もっと洗練された美術がないといけないと思う。そのため、次の3つの取組を提案します。 ①芸術文化の理解を深めるための情報発信 文化のみの広報を発行する、または、文化面を増やすなどし、様々なアートの発信をするべき。 ・普通の記事よりも学芸員など芸術を理解し紹介できる人目線からの発信（作家と対話形式など）。 ・芸術、本、絵本、様々な文化的要素の発信。</p>	<p>ご意見のとおり、市民の方に様々なアートに関する情報提供をすることが重要と考えております。ご意見を踏まえ、「プロモーションの充実」に、「・広報なすしおばらを活用するなど、アートを活かしたまちづくりへの理解を深めるための情報発信を行います。」を追加いたします。 展示発表の場については、「戦略1：アートの点づくり」を推進していくことで、充実させていきたいと考えております。いただいたご意見も参考にさせていただき、展示発表の場を充実させていきたいと考えております。 ご意見にあるようなイベントは、アートを身近にするイベントであるため、いただいたご意見を参考にさせていただき、イベントの企画や支援について検討していきます。</p>

番号	意見要旨	市の考え方
15	<p>②人の行き交う場所での展示、発表 市民のスペースとして自由な発表の場と市が作家に依頼し、空間を創ってもらうような展示場所を作るべき。</p> <p>③クロイソ日用市のようなイベントの支援・企画 暮らしに身近なアートに触れ、購入することができるイベントの支援や企画をするべき。 作家物が広まり生活に溶け込んでいくことで暮らしが豊かになる。</p>	